

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	大腸癌脈管浸潤部における新規治療標的因子の同定		
2. 対象患者	抗がん剤や放射線治療後に当院で手術を行った大腸癌患者さん		
3. 対象となる期間	2016年 1月 1日 ~ 2019年 3月 31日		
4. 実施診療科等	消化器外科		
5. 研究責任者	氏名	三浦 卓也	所属 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	手術治療だけでは治りにくい大腸癌に対しては、手術の前に抗がん剤や放射線などの他の治療を組み合わせ、治癒を目指しています。しかしながら、抗がん剤や放射線の効果が少ない場合、治癒が期待できなくなります。そこで新しい治療法の開発が望まれています。		
8. 研究の目的	抗がん剤や放射線治療でも消えない壁外脈管浸潤部(いわゆる癌の深い根)と、再発がほぼ見られない壁内のみ病変(有効例のわずかな癌の残り)とを比べて、抗がん剤や放射線治療が効かない要因を明らかにし、新しい治療標的を見出すことが目的です。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	当院で抗がん剤や放射線治療後に手術を行い、診断目的に作成された大腸癌組織で院内に保存されている資料を用います。遺残脈管浸潤部と壁内のみ病変部を病理学的に抽出し分子化学的手法で比較し、差の見られものを明らかにして、新しい治療標的を見出します。また、診療録や血液画像検査を用いて、それらとの関連性を検討します。		
10. 個人情報の保護	患者さん個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では、大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、小野薬品工業(株)、(株)ヤクルト本社、エーザイ(株)、大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、MSD(株)、日本イーライリリー(株)、第一三共(株)、小野薬品工業(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。		
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科 三浦 卓也		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080